

<p>項目</p>	<p>書名 New Horizon English Course</p> <p style="text-align: right;">2 東京書籍</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○グローバル化に適応できる日本人育成のために、積極的に世界と繋がろうとする「心」を育てると共に、世界に日本のよさを発信できる生徒を育成するために、伝統や文化に関する題材を豊富に取り上げている。</p> <p>○生徒の自己表現活動が豊富で、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」ができる。技能別の練習問題をたくさん取り入れ、4技能がそれぞれ重点化または統合化され、繰り返し学習することで、基礎的な知識・技能を確実に定着できるよう工夫されている。</p>
<p>特 色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○Unit で基礎の反復練習、Daily Scene で日常のコミュニケーション場面における活用、Presentation で自己表現活動、という3部構成によって、4技能を総合的に育成できる学習の流れとなっている。</p> <p>○Daily Scene は日常によくあるシチュエーションで展開しており、基礎文法の定着を目指している。</p> <p>○まとめでは、文法の要点を整理して示し、確認問題で理解度を図ることができる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○Presentation は自己表現力と発信力を高める活動が様々な形で取り入れられており、特に段階を追って年に3回スピーチ作成に取り組めるようになっており、統合的な学習を定期的に取り入れ表現力の育成に重点を置く仕組みとなった。</p> <p>○読み物教材は日本の人や文学作品など取り入れ、その感想を話し合い、文に書く等、発展学習として取り組める仕組みになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○学び方コーナーは辞書の使い方、文章のまとめ方など手順や例を用いてわかりやすく自主学習のポイントを説明しており、この教科書の1つの特徴となっている。</p> <p>○題材に震災関係・防災教育・愛国心・伝統文化・グローバル化等を取扱い、実践的な英語を用い、主体的に英語を使ってコミュニケーションの図れる生徒の育成を目指している。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○4技能をバランスよく学べ、基本文の定着が図れるよう、分量など工夫している。</p> <p>○年度初めのUnit0でも前年度の総括的学習としてShow and Tell等の表現活動を取り入れており、前年度までの総合的な力を図る良い機会となっている。</p>
<p style="text-align: center;">資 料</p>	<p>○巻頭には、1学年は「ことば」、2学年は「学び」、3学年は「かかわり」をテーマにした写真資料がある。</p> <p>○教科書のサイズは横幅が広いサイズになり、資料を大きく掲載し、新出単語は本文の横に配置され、書き込むスペースを作ったりしている。</p> <p>○巻末には Bonus Word Box, Word Room で学びたい語彙や英語表現、日本文化の説明等がカラーイラスト付きでされている。</p>
<p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p>○1学年では、Let's Read は活字体を使用し、それ以外はブロック体を使用している。2・3学年でも Tool Box, Daily Scene ではブロック体を使用し、それ以外は活字体を使用している。1学年で各単語にアクセント、2・3学年で発音記号が併記される。また発音記号を使用した音の分類がある。</p> <p>○教科書のサイズが広がり、本文の横に語句が位置付けられている。1学年 Unit5以降、文字が小さくなり、行間も狭くなる。2学年以降さらに文字が小さくなり、Further Reading ではさらに文字が小さく、行間が狭くなり、情報量が増える。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○Unit, Daily Scene, Presentation の3部構成はわかりやすく、学期に一度の自己表現活動もわかりやすくなっている。また、学び方コーナーも英語学習に必要な手順を抑えており、発信力を高めるためのマニュアルの一部になっている。</p> <p>○Presentation, Daily Scene, Unit0等表現力・発信力を高める活動が増えている。</p> <p>○国際社会、日本の伝統文化に対する理解を深める題材が多くなっている。</p>

教科 (外国語)

書名		9 開隆堂
項目	SUNSHINE ENGLISH COURSE	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○小学校で学んだことを、1・2学年の教科書には明示し、円滑な接続が図れるよう意図されている。</p> <p>○前回より4技能を総合的に育成する活動が取り入れられており、コミュニケーション能力の基礎を育成できるよう工夫されている。</p> <p>○今回から、全学年の巻末に「Can-Do リスト」が添付され、定期的に理解している内容を確認でき、自ら学ぶ意欲を高めるようになっている。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○Program, POWER-UP, My Project の3部から構成され、Program の各セクションの Basic Dialog で基本対話を学び、Listen, Speak, Try で同パターンの基本練習を行い、本文学習後に Write で自己表現力を行わせている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○Program ごとに基礎的技術を4技能別に身につけさせ、各学期に1回 My Project で統合的に取り組み、よく考え、自分自身の英文を考え、発表することで、実用的コミュニケーション力を養えるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○新出単語や発音チェックができるようマークが設けられている。「英語のしくみ」でも自身で復習できるようになっている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各セクションの取組に Listen, Speak, Write 等と目的が明示されており、何を目標とするか判るようになっている。</p> <p>○Power-Up, 2・3学年 Extensive Reading のコーナーで、4技能を活用して取り組める工夫がなされている。</p>
色	資 料	<p>○巻頭に本文関連写真がある。各セクションの本文は右に置かれ、新出単語が本文横に置かれている。</p> <p>○巻末には表現活動に活用できる語彙集、英語表現等がカラーで紹介されている。今回全学年で「Can-Do (できること) リスト」が添付されている。さらに、1学年の切り離しできる「アクションカード」、2, 3年生には会話練習用「クイックQ&A」が今回もある。</p>
表記・表現	<p>○1学年では、Program8 My Project まではブロック体で表記指、それ以降は活字体を用いている。2・3学年は本文で活字体、それ以外にブロック体を使用。さらに各学年で、日記・スピーチ・手紙文で手書き風の事態を使用している。また1学年の各単語にアクセント付記、2・3学年で発音記号が併記される。欄外に音声面のアドバイスや不規則動詞の語形変化が記載される。</p> <p>○1学年 Program5 以降、文字が小さくなり、行間を広くした。2学年以降は情報量を増やすため、文字がさらに小さく、行間も狭くなっている。</p>	
総 括	<p>○構成は、Program で基礎を学び、Power-Up で4技能を活用してバランス良くコミュニケーション能力を高め、さらに My Project で学期のまとめとして学んだことを統合的・発展的に学習し、自己表現力・実践力を身につけるといった前回同様の構成となっている。</p> <p>○題材は、前回とほぼ同じ話題となっており、外国の日常生活・風俗・習慣・文化について理解を深め尊重する態度を育成すると共に、我が国の伝統文化を見直し、これを外国に発信できる基礎的スキルを身につける仕組みとなっている。</p> <p>○付録に「Can-Do リスト」が付いたのが大きな進歩である。</p>	

書名		TOTAL ENGLISH	11 学校図書
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○各学年とも4技能の活動のバランスを重視。本文は対話形式が中心で、活動の積み重ねによりコミュニケーション能力の基礎を養うようになっている。</p> <p>○小学校外国語活動との連携を重視し、1学年は一般動詞の導入から始まっているのが大きな特徴である。</p> <p>○日常生活から日本の伝統文化・異文化・環境問題など様々な題材を取り入れ、国際語として英語圏以外での舞台・題材を用いて、国際理解を進める工夫がされている。</p>		
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○2つのLessonとProjectで1Chapterを構成し、各学年4つのChapterで成り立つ。前年度の復習としてPre-lessonが置かれる。各Lesson後にReviewが設けられ、4技能を繰り返し定着を図っている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○Lessonの各セクションやActionのListening, Speaking, Writingで習得した基礎的知識・技能を実際に活用して、自分の身の回りのことについて表現活動するChapter Projectが各Chapterの最後に設けられている。</p> <p>○Word Tree, Talking Timeでは日常生活でよく使われる表現やコミュニケーション場面を集中して活動できるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各Chapterの最初のページに言語材料や目標が明記され、生徒が見通し・振り返りが図れる様になっている。Lesson後のReview, Chapter Projectで学習を振り返り、Check it Outでは、自分で文法整理や学習のまとめが図れるようになっている。</p> <p><聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○4技能の育成のセクションにおいて、語彙力の強化を適切にはかるため随所にWord Treeを設けている。あるテーマに関して運用度の高い語句を配し、典型的な言語活動場面を通して語彙習得が図れる工夫がされている。</p>	
	資 料	<p>○小学校で慣れ親しんだ、一般動詞(like)から導入することで小学校外国語活動との接続が強化されている。</p> <p>○セクションを見開きページとし、右ページに目標分とそれを習得するためのActivitiesを設けている。</p> <p>○1学年のReadingの点字では、実際にアルファベットの点字に触れることができ、体験的な学習ができる工夫がされている。</p>	
	表 記・表 現	<p>○1学年では、年間を通してブロック体が使われる。2, 3年では、Talking Time, Action, Word Treeでブロック体、他は活字体が使われる。全学年で、日記・スピーチ・手紙文で手書き風文字を使用。</p> <p>○1学年では新出単語のアクセント記号を、2・3学年では発音記号を併記している。</p> <p>○綴りと発音を関連付けて指導できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○年間4つのChapterがあり、見通しと狙いを明示したガイドがあり、まとめとして4技能の統合的学習を行うChapter Projectがあるのが大きな特徴。</p> <p>○国際語としての英語を意識し、題材を英語文化圏のみでなく幅広く他地域からも取り入れ、背景にある文化・社会・生活面にも視野を広げ、理解や共感を深める構造になっている。</p>		

項目	書名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 15 三省堂	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに、4技能を段階的に取り入れた言語活動を通じて基礎を身につけ、統合的に活用できるコミュニケーション能力を養える様になっている。 ○4技能をバランス良く学習し、実際の使用に即した場面設定や様々な人々との関わりを通して行われる言語活動を取り入れることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指している。 ○世界の人・言語・文化・自然科学などに対する関心を高め、生徒の発達段階に応じた題材を取り入れながら、自ら思考・判断する力を育成する工夫がなされている。 	
特色	<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Lesson, Let's Listen, Let's Talk の3部で構成。Lesson は GET, USE, に分かれ、GET では段階的に習得させるよう言語活動が設定されている。 ○「Word Bank」「Review」は単元を超えた既習の文法事項や単語を整理して学ぶことができ、生徒の語彙力や応用する力の育成に繋がる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Lesson の Get で学んだことを Use-Read (Speak, Write) で力を定着させ、さらに伸ばしたい技能を特化して取り組めるよう工夫している。 ○Project ではインタビュー・スピーチなどの言語活動を通して、既習の言語材料を活用・応用しながら、思考力・表現力を高めるよう工夫されている。 ○Let's talk では身近な場面での会話練習ができる。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○付録の「単語の意味」は各単語の意味・品詞・使い方など内容が充実しており、将来生徒が自ら英和辞典を用いて単語を調べる基本になると期待できる。 ○各 Lesson の最初に「この課で学ぶこと」があり、言語材料や目標を示して生徒が見通しを立てて学ぶことができる。また「文法のまとめ」で、振り返りができるようになっている。 <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Let's Listen / Let's Talk / Let's Read では生徒の四技能のバランスの取れた育成が意図されている。特に Let's Listen では、豊富な絵から内容を理解する手助けとなる工夫がされている。また、ディクテーションなど様々な方法を用いて聞き取る力を育成することが意図されている。
	<p style="text-align: center;">資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には学年ごとにテーマを持つ写真資料がある。教科書の幅が広がり、新出単語が本文横に置かれている。 ○読み物教材の内容が奥深く、読みごたえのある物である。巻末に、「絵でわかる英語の仕組み」「Can-Do リスト」等、付録資料が豊富である。
	<p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の Lesson9, Let's Read、2年生の Lesson2, 4, 8 の USE と Let's Read、3年生の Lesson2, 3, 4, 6, 7 の USE と Let's Read, 付録で活字体を使用。それ以外ではブロック体を使用している。各学年共通して、日記やスピーチ、手紙文では手書き風の字体を使用。1年生で各単語にアクセント付記。2, 3年生で発音記号が紫色で併記。 ○1年生 Lesson4 以降文字が小さくなる。他社に比べ文字が細かく情報量が多い。
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各 Lesson で、見通しを持たせる「どびら」、基礎・基本を習得する GET、習得したものを活用する USE、身についたことを確認する「まとめ」で構成される。 ○各学年で学期のまとめとして4技能を活用して自己表現能力と発信力を高める Project がある。Let's Talk, Let's Listen, Let's Read ではそれぞれの技能を高める活動を行える。 	

書名		ONE WORLD English Course	17 教育出版
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的知識と技術を4技能別の Activity で身につけさせながら、会話表現や4技能の統合的な活用力を養うように工夫している。 ○各 Lesson ごとに到達目標が明示され、言語活動の意義を常に理解でき、積極的に取り組む態度を育成するように構成されている。 ○身近な日常生活のやりとりを中心に、日本の伝統文化から国際理解へと広がる様々な話題・題材を、学習活動と関連させて提示し、英語に対する興味・関心を深めながら、世界と繋がる受信力と世界に向けての発進力を育成する工夫がなされている。 		
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年が Unit で構成され、1つの Unit に4つの Lesson がある。セクションが4つあることで、本文の内容(会話の内容)にストーリー性が広がり、生徒も身近なこととして学ぶことができる。 ○各 Lesson は Hop, Step, Jump の3段階で構成され、Hop では「聞く」「話す」「書く」活動を、Step では「読む」活動を行うようになっている。Jump では、Task で振り返り、Project で統合的な学習に取り組むようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Project や各課に配置されている Task では、既習の文法事項などを活用して自分に置き換えて表現するなどの活動を通して、コミュニケーション能力を高めることのできるよう工夫されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○別冊 Essentials には赤色のマスキングシートが付いていて新出重要単語を意欲的に学ぶことができるよう工夫されている。また PLUS Dialog, Plus Activity では、基本本文の定着や発展的な活動が含まれていて習熟度別少数指導等の場面でも活用が期待できる。 ○各単元ごとに目標が明示されており、学んだことを実際にどのようにいかしていくのかわかりやすい。また各学年の巻末の Can-Do リストを使うことで、1年間を振り返って自己評価することができる。 <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○通常の単元において、基本的な4技能を育成するための題材がある。また4技能を、さらに伸ばすことを意図した Tips という単元が配置されている。また Task では4技能を用いたコミュニケーションにおける自己表現の場が設定されており、発表活動などに活用できる。 	
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を通してデザインが統一されており、イラストや写真を多用している。各学年の巻末に様々表現活動用の語彙・英語表現等がカラーイラストで紹介されている。1学年ではPCキーボードの運指表あり。全学年に Can-Do 自己チェックリストあり。カラーユニバーサルデザインの配慮が効果的にされている ○中学生の興味関心の高い題材が取り上げられており海外文化・名所や日本の伝統文化、生命、平和、福祉などについて考えさせることが期待できる。 	
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年の Lesson6 までブロック体、それ以降は活字体を使用。2・3学年では、Tips, Reading, 付録でブロック体を、それ以外は活字体を使用。また日記・スピーチ・手紙文では手書き風の字体。1学年で単語にアクセント付記。2・3学年で発音記号が併記。発音記号を使用した音の分類がある。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの Lesson が2つの Hop, 2つの Step で構成され、Jump 等で活用する3段階構成で、基礎知識・技術を定着させ、さらに Project で統合的な表現活動を行う構成。またさらに応用力、活用力を向上させるため別冊 Essentials が各学年についており、補充学習、宿題多様な活用が期待できる。 		

<p>項目</p>	<p>書名 Columbus 21 English Course 38 光村図書</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○学習指導要領の目標に準拠した学習目標や学習の具体的な内容、培うべき資質や能力を明示している。 ○日常表現や実際の使用場面・目的に応じた英語を学ぶことで、グローバル時代を生きる生徒たちが英語のコミュニケーション能力をバランスよく身に付けられるようになっている。 ○日本の伝統文化の理解から国際理解につながる幅広い題材を取り上げ、世界とつながるための受信力と世界に飛び立つ発信力を育成する工夫がされている。</p>
<p>特色</p>	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○基本となる Unit は、本文と Try It!、You Can Do It! で構成され、基本知識を習得しながら活用するための練習をすることができる。 ○Unit 間には、適宜まとめと練習のための教材が配置されており、スパイラル的に基本知識の確認ができるようにしている。さらに各学年に 3 つの Small Goal があり、学期毎の達成目標を示している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○Unit のまとめの You Can Do It! では、実際の使用場面を想定した言語活動を通して、Unit の到達目標を達成できるようになっている。 ○付録「CLIL 英語で学び、考えよう」では、家庭、社会など他教科の内容の一部を英語で学習することで“英語で学ぶ”体験ができる。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○付録 Your Coach では、進度に応じた学習方法の具体例や、英語学習の目的意識を喚起するための解説が掲載されており、モチベーションを保ちながら自律的に学習を継続できるよう配慮している。 ○各 Unit の扉には、到達目標が明示され、題材への関心を高める設問も設けられている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○Try It! を設定し、基本文を 4 技能のタスクを行いながら定着するようになっている。 ○Go For It! と Let's Read では、自己表現活動と、まとまった分量の英語を読む力を養うことができる。</p> <p>資料</p> <p>○ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさや配置、イラスト等構成されている。新出単語は本文横に配置。 ○巻頭には英語のメッセージとその内容に関わる写真、本文関連写真がある。文法・文構造の理解のために、各学年の巻末付録に英語のしくみを掲載。イラストを多用し、また必要に応じて関連する文法事項を横断的に扱い、知識を統合できるように配慮されている。</p> <p>表記・表現</p> <p>○1 学年では年間を通してブロック体を使用されている。2・3 学年では Skit Time, Go for It! でブロック体を使用され、それ以外では活字体が使用されている。また、各学区年共通して、日記やスピーチ、手紙文では手書き風の字体を使用。1 学年で各単語にアクセント付記、2・3 学年で発音記号が紫色で併記。また発音記号を使用した音の分類がある。</p>
<p>総括</p>	<p>○身近な場面から世界に広がるトピックまで、登場人物の成長を通して、自然な英語に触れながら、生きた言葉の使い方が学べるようになっている。対話文だけでなく、メール、インターネットなど実際によくある場面を設定しているほか、震災や防災に関する題材を扱っており、幅広い教育への配慮がされている。</p>